

1. 式の計算

【演習】①式の計算

1 単項式 [①、③、⑤] 多項式 [②、④、⑥]

2 (1) x^2 、 -3 (2) $3xy$ 、 $-6y^2$ 、 $-5x^2$ (3) $\frac{2}{3}x$ 、 -1 (4) $\frac{1}{2}x^2$ 、 $-\frac{1}{5}$ 、 y^2

3 (1) 2次式 (2) 4次式 (3) 3次式 (4) 0次式

【演習】②多項式の計算

1 (1) $4a-7b$ (2) $-2a-4b$ (3) $3x-y$ (4) $-3x-2y$ (5) $-\frac{1}{12}x^2-2x+6$ (6) $-x^2y-3xy^2$

2 (1) $\frac{17x-5y}{6}$ (2) $\frac{-5x-2y}{12}$ (3) $\frac{7}{3}b$ (4) $\frac{-23a+b}{10}$

3 (1) $4a$ (2) $-2a+4b$

【演習】③単項式の乗法・除法

1 (1) $-6xy$ (2) $3a^3b^3$ (3) $-\frac{a}{2b}$ (4) $-\frac{4}{5}x$ (5) $6a^{11}$ (6) $9x^4y^2$ (7) $2x^2$ (8) $-\frac{1}{2b^2}$

2 (1) 6 (2) 2 (3) 4

【演習】④文字式の利用

1 最も小さな奇数を $2n+1$ (n : 整数とする) とすると、5つの連続した奇数は、
 $2n+1$ 、 $2n+3$ 、 $2n+5$ 、 $2n+7$ 、 $2n+9$ 、とおける。これらの和は、

$$\begin{aligned} & (2n+1)+(2n+3)+(2n+5)+(2n+7)+(2n+9) \\ & =10n+25=5(2n+5) \end{aligned}$$

$2n+5$ は整数となるので、 $5(2n+5)$ は5の倍数となる。

2 2ケタの自然数の十の位の数字を x 、一の位の数字を y とすると、
もとの自然数は $10x+y$ と表せる。また、十の位と一の位の数字を入れかえてできる
自然数は $10y+x$ と表せるので、その差は、

$$\begin{aligned} & (10x+y)-(10y+x) \\ & =10x+y-10y-x=9x-9y=9(x-y) \end{aligned}$$

$x-y$ は整数となるので、 $9(x-y)$ は9の倍数となる。

3 偶数を $2m$ 、奇数を $2n+1$ (m 、 n は整数) とすると、

$$\begin{aligned} & (\text{偶数})+(\text{奇数}) \\ & =(2m)+(2n+1)=2m+2n+1=2(m+n)+1 \end{aligned}$$

ここで、 $m+n$ は整数なので、 $2(m+n)+1$ は奇数となる。

【演習】⑤等式の変形

1 (1) $y=4-\frac{2}{3}x$ (2) $b=\frac{c}{3a}$ (3) $h=\frac{V}{\pi r^2}$ (4) $y=-\frac{3}{2}+\frac{3}{4}x$ (5) $h=\frac{3V}{S}$ (6) $b=a-\frac{l}{2}$ (7) $c=b-3a$
(8) $y=\frac{5}{3}x-\frac{2}{3}z$ (9) $x=\frac{c}{a-b}$ (10) $r=\frac{S}{S+a}$

【演習】⑥総合演習

1 (1) $x-y$ (2) $3x^2-7x+1$ (3) $\frac{4x+7y}{6}$ (4) $\frac{3a-4b}{5}$ (5) $\frac{1}{12}x+\frac{19}{15}y$ (6) $-2x+2y$ (7) $-10xy$
(8) $\frac{3}{2}a^2$ (9) $\frac{y^2}{6x}$ (10) $-\frac{3}{10x^2}$ (11) $60x^2yz$ (12) $3b-5a$

2 $-x+5y$

3 3ケタの整数を $100x+10y+z$ (x, y, z は整数)とすると、百の位と一の位の数字を入れかえた整数は、 $100z+10y+x$ とおける。よってその差は、

$$\begin{aligned} & (100x+10y+z)-(100z+10y+x) \\ &= 100x+10y+z-100z-10y-x \\ &= 99x-99z \\ &= 99(x-z) \end{aligned}$$

$x-z$ は整数なので、 $99(x-z)$ は99の倍数となり、99で割り切れる。

4 十字の真ん中の数字を n とすると、上は $n-7$ 、下は $n+7$ 、左は $n-1$ 、右は $n+1$ となる。5つの数字の和は

$$\begin{aligned} & (n-7)+(n+7)+n+(n-1)+(n+1) \\ &= 5n \end{aligned}$$

n は整数なので、 $5n$ は5の倍数となる。

5 (1) $b=\frac{3c}{a}$ (2) $b=\frac{21-2a}{9}$

【演習】⑦総合演習 (応用)

1 (1) $-a-7b$ (2) $\frac{-5x-5y}{6}$ (3) $\frac{-4x-7y}{18}$ (4) $2a^2-4a-11$ (5) $-4x+13y$ (6) $\frac{3b}{5}-\frac{a}{3}$
(7) $-\frac{1}{2x}$ (8) $-\frac{3b^3}{2a}$

2 (1) 4次式 (2) 3次式 (3) 0次式 (4) 6次式

3 (1) $c=\frac{ab}{a+b}$ (2) $b=\frac{2S}{h}-a$

4 (1) -16 (2) -6 (3) $\frac{2}{3}$ (4) $-\frac{1}{2}$

5 【解】 3ケタの正の整数を $100a+10b+c$ とおく。

$$\begin{aligned} &100a+10b+c \\ &=99a+9b+(a+b+c) \cdots \textcircled{1} \end{aligned}$$

ここで、各位の数の和 $=a+b+c$ が3の倍数より、 $a+b+c=3n$ (n は整数)とおくと、

$$\begin{aligned} \textcircled{1} &=99a+9b+3n \\ &=3(33a+3b+n) \end{aligned}$$

$33a+3b+n$ は整数より、 $3(33a+3b+n)$ は3の倍数となる。よって、3ケタの正の整数において、各位の数の和が3の倍数なら、3ケタの正の整数も3の倍数となる。

6 【解】 2つの奇数をそれぞれ $2m+1$ 、 $2n+1$ (m, n は整数)とおくと、

$$\begin{aligned} &(\text{奇数})+(\text{奇数}) \\ &=2m+1+2n+1 \\ &=2m+2n+2 \\ &=2(m+n+1) \end{aligned}$$

$m+n+1$ は整数より、奇数と奇数の和は2の倍数、すなわち偶数となる。

7 (商) $3m+n+2$ (余り)1

【演習】 ⑧中間・期末テスト予想問題演習

1 ア 積 イ 単項式 ウ 多項式 エ 項 オ 次数 カ 2次式

2 (1) 単項式 [①, ③] 多項式 [②, ④, ⑤] (2) ① $-2, -x^2, 3xy$ ② $-\frac{a^2}{6}, -\frac{b^2}{6}, \frac{c^2}{6}$

(3) ①4次 ②4次 ③3次 ④4次 (4) ① $3a$ と $-6a, -2b$ と b ② $2xy^2$ と $4xy^2, -3x^2y$ と $-6x^2y$

3 (1) $-7ab$ (2) $-xy-9y$ (3) $-3x-7y$ (4) $4a-5b+3$ (5) $-6x+2y$ (6) $2a-5b$ (7) $\frac{3}{2}a-\frac{5}{3}b$

(8) $\frac{9}{5}x^2-\frac{1}{6}x$ (9) $24xy$ (10) $-\frac{3y}{2}$ (11) $-\frac{y}{3x}$ (12) $2a-4b$ (13) $-2ab$ (14) $8x^2y$

4 (1) $y=\frac{1}{2}x-\frac{3}{2}$ (2) $h=\frac{3V}{S}$

5 (1) -10 (2) -18 6 (1) $6x-7y$ (2) $-9x+5y$

7 [解] 奇数を $2m+1$, 偶数を $2n$ (m, n は整数) とおくと,

$$(2m+1)+2n$$

$$=2m+2n+1$$

$$=2(m+n)+1$$

$m+n$ は整数なので, $2(m+n)$ は偶数となる。(偶数)+1 は奇数より, $2(m+n)+1$ は奇数となる。
したがって, 奇数と偶数の和は奇数となる。

8 [解] A の十の位の数を a , 一の位の数を b とすると (a, b は 1 以上 9 以下の自然数),

$$A=10a+b, B=10b+a$$

とそれぞれおける。よって,

$$A+B=(10a+b)+(10b+a)$$

$$=11a+11b$$

$$=11(a+b)$$

$a+b$ は整数なので, $11(a+b)$ は 11 の倍数となる。

したがって, $A+B$ は 11 の倍数となる。

2.連立方程式

【演習】①連立方程式の解き方

□1 (1) $\begin{cases} x=5 \\ y=6 \end{cases}$ (2) $\begin{cases} x=4 \\ y=-2 \end{cases}$ (3) $\begin{cases} x=1 \\ y=6 \end{cases}$ (4) $\begin{cases} x=4 \\ y=-1 \end{cases}$ (5) $\begin{cases} x=-2 \\ y=0 \end{cases}$ (6) $\begin{cases} x=-\frac{3}{2} \\ y=0 \end{cases}$ (7) $\begin{cases} x=2 \\ y=6 \end{cases}$ (8) $\begin{cases} x=-7 \\ y=-2 \end{cases}$

【演習】②いろいろな連立方程式

□1 (1) $\begin{cases} x=4 \\ y=-2 \end{cases}$ (2) $\begin{cases} x=-1 \\ y=3 \end{cases}$ (3) $\begin{cases} x=18 \\ y=4 \end{cases}$ (4) $\begin{cases} x=-6 \\ y=8 \end{cases}$ (5) $\begin{cases} x=4 \\ y=-2 \end{cases}$ (6) $\begin{cases} x=-6 \\ y=8 \end{cases}$ (7) $\begin{cases} x=2 \\ y=-1 \end{cases}$ (8) $\begin{cases} x=-\frac{7}{2} \\ y=-\frac{1}{2} \end{cases}$

【演習】③連立方程式と解

□1 $\begin{cases} a=5 \\ b=1 \end{cases}$ □2 $\begin{cases} a=3 \\ b=5 \end{cases}$

【演習】④連立方程式の利用 (1)

□1 4km □2 9km □3 1200m

【演習】⑤連立方程式の利用 (2)

□1 男子 70 人、女子 60 人 □2 今年の男子= 216 人、今年の女子= 209 人

【演習】⑥連立方程式の利用 (3)

□1 8%の食塩水を 300g、3%の食塩水を 200g □2 5%の食塩水を 360g □3 水 50g

【演習】⑦連立方程式の利用 (4)

□1 82 □2 72

【演習】⑧総合演習

1 (1) $\begin{cases} x=3 \\ y=5 \end{cases}$ (2) $\begin{cases} x=3 \\ y=7 \end{cases}$ (3) $\begin{cases} x=1 \\ y=2 \end{cases}$ (4) $\begin{cases} x=1 \\ y=4 \end{cases}$ (5) $\begin{cases} x=-4 \\ y=3 \end{cases}$ (6) $\begin{cases} x=5 \\ y=7 \end{cases}$ (7) $\begin{cases} x=6 \\ y=-2 \end{cases}$ (8) $\begin{cases} x=-3 \\ y=12 \end{cases}$
 (9) $\begin{cases} x=4 \\ y=3 \end{cases}$ (10) $\begin{cases} x=1 \\ y=3 \end{cases}$

2 $\begin{cases} a=5 \\ b=6 \end{cases}$

3 600m 4 463

【演習】⑨中間・期末テスト予想問題演習

1 ③

<p>2 (代入法) $\begin{cases} 3x+y=8 \cdots\text{①} \\ 2x-3y=9 \cdots\text{②} \end{cases}$</p> <p>①より, $y=8-3x \cdots\text{③}$</p> <p>③を②に代入して, $2x-3(8-3x)=9$ $2x-24+9x=9$ $11x=33$ $x=3 \cdots\text{④}$</p> <p>④を③に代入して, $y=8-3 \times 3=8-9=-1$</p> <p>以上より, $x=3, y=-1$</p>	<p>(加減法) $\begin{cases} 3x+y=8 \cdots\text{①} \\ 2x-3y=9 \cdots\text{②} \end{cases}$</p> <p>①$\times 3$ $9x+3y=24$ ② +) $2x-3y=9$ <hr style="width: 100%; border: 0.5px solid black;"/> $11x = 33$ $x=3 \cdots\text{③}$</p> <p>③を①に代入して, $9+y=8$ $y=-1$</p> <p>以上より, $x=3, y=-1$</p>
---	--

3 $a=3$

4 (1) $\begin{cases} x=2 \\ y=1 \end{cases}$ (2) $\begin{cases} x=-1 \\ y=6 \end{cases}$ (3) $\begin{cases} x=3 \\ y=7 \end{cases}$ (4) $\begin{cases} x=7 \\ y=-5 \end{cases}$ (5) $\begin{cases} x=2 \\ y=-1 \end{cases}$ (6) $\begin{cases} x=5 \\ y=-6 \end{cases}$ (7) $\begin{cases} x=6 \\ y=-2 \end{cases}$ (8) $\begin{cases} x=3 \\ y=2 \end{cases}$

5 鉛筆 7 本, ボールペン 5 本 6 72 7 6km 8 男子 90 人, 女子 75 人

3.1 一次関数

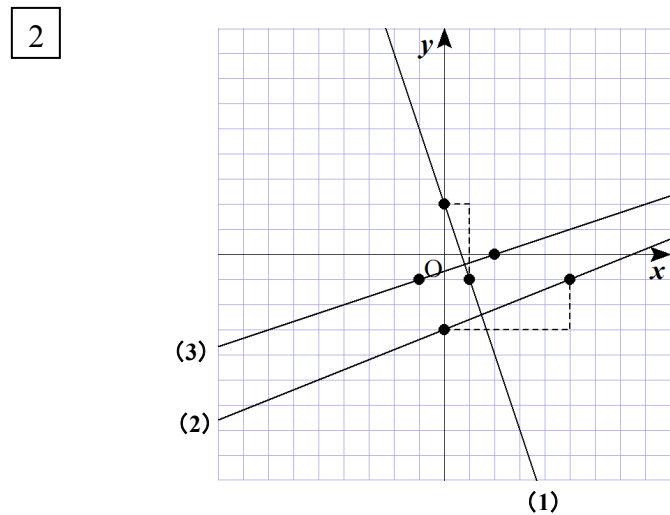
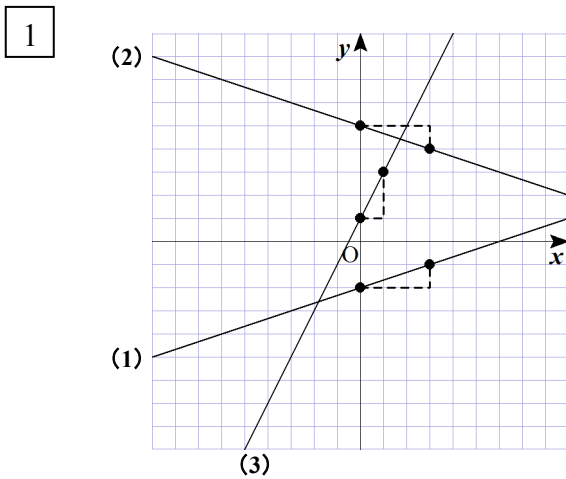
【演習】①1 次関数

- 1 ①、②、④
- 2 (1) $y=x^2$ 、1 次関数とはいえない (2) $y=1000-50x$ 、1 次関数といえる (3) $y=2\pi x$ 、1 次関数といえる
- 3 (1) $0 \leq x \leq 8$ (2) $y=40-5x$ (3) いえる

【演習】②変化の割合

- 1 ① -1 ② 3 ③ $-\frac{1}{4}$
- 2 (1) 3 (2) 16 (3) 3 (4) 16

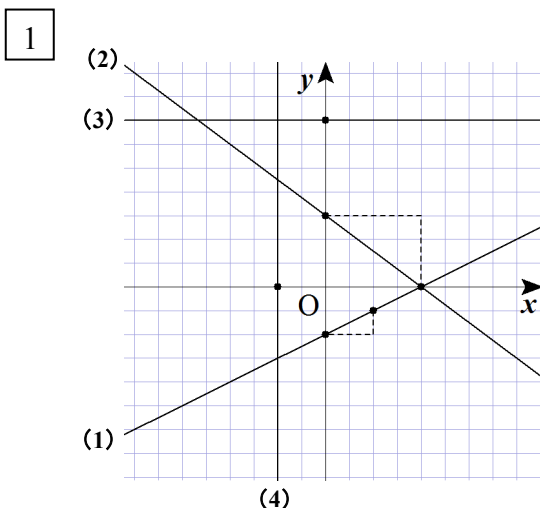
【演習】③1 次関数のグラフ



【演習】④1 次関数の式の決定

- 1 (1) $y=\frac{1}{2}x+3$ (2) $y=-3x-2$ (3) $y=-\frac{1}{3}x+1$
- 2 (1) $y=-3x+1$ (2) $y=\frac{2}{3}x+2$ (3) $y=x-6$ (4) $y=\frac{1}{3}x+2$

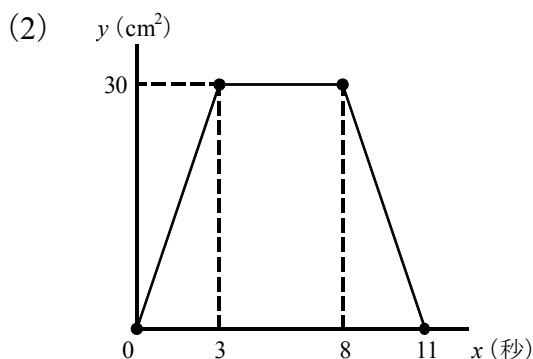
【演習】⑤2 元 1 次方程式のグラフと交点の座標



- 2 (1) (3, -2) (2) (1, -1) (3) (2, 0)

【演習】⑥1次関数の利用 (1)

1 (1) ① : $y = 10x$ ($0 \leq x \leq 3$) ② : $y = 30$ ($3 \leq x \leq 8$) ③ : $y = 110 - 10x$ ($8 \leq x \leq 11$)



【演習】⑦1次関数の利用 (2)

1 (1) 60m/分 (2) $y = 60x$ (3) 40m/分 (4) $y = 40x$ (5) 800m (6) 5分後

【演習】⑧総合演習

1 (1) $\frac{2}{3}$ (2) 6 (3) $-1 \leq y \leq 2$ (4) $-6 \leq x \leq 6$

2 (1) $y = \frac{1}{3}x + 2$ (2) $x = -2$ (3) $y = -x - 4$ (4) $y = 5$

3 (1) $y = 2x - 1$ (2) $y = \frac{2}{3}x + 2$ (3) $y = -\frac{1}{2}x + 4$ (4) $y = 3x - 2$

4 (1) $y = -2x + 6$ (2) $y = \frac{1}{2}x + 1$ (3) P(2,2) (4) 5

5 (1) 13cm (2) $y = 13 - \frac{3}{5}x$ (3) $\frac{65}{3}$ 分後

6 (1) 20 (2) 50 (3) $\frac{55}{3}$ 分後

【演習】⑨総合演習 (応用)

1 (1) $\frac{2}{3}x - 2x - 3$ (2) $y = -x + 4$ (3) $y = x - 4$ (4) $y = \frac{3}{4}x - 4$ (5) $y = 3x + 1$ (6) $y = -3x + 2$ (7) $k = -5$

2 (1) (3, -4) (2) (3, -1) (3) $k = \frac{7}{3}$

3 (1) (-1, 2) (2) 6 (3) $y = \frac{1}{4}x + \frac{3}{4}$ (4) $y = -2x$

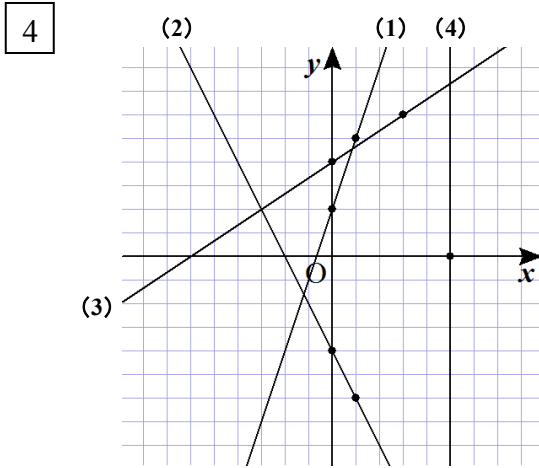
4 (1) $\frac{1}{4}x, y = -\frac{3}{4}x + 15$ (2) Q(-4a + 20, 3a) (3) 10

5 (1) $\frac{2}{3}x, y = -200x + 8000$ 、毎分 200m (2) 毎分 50m

【演習】⑩中間・期末テスト予想問題演習

1 ②, ③, ⑤ 2 (1) 3L (2) $y=20-3x$ (3) $\frac{20}{3}$ (分後)

3 (1) ②, ⑤ (2) ③ (3) ②, ④, ⑤ (4) ①と⑥



5 (1) $y=\frac{1}{3}x+2$ (2) $y=-2x-3$ (3) $x=-4$ (4) $y=-7$ 6 $(\frac{3}{4}, \frac{5}{2})$

7 (1) $x=-1$ (2) -2 (3) -6 (4) $0 \leq y \leq 6$

8 (1) $y=-x+4$ (2) $y=\frac{2}{3}x+6$ (3) $y=-x+3$ (4) $y=-3x+4$ (5) $y=-2x+5$

9 (1) 10(cm) (2) $y=10+0.2x$ (3) 55g

10 (1) 時速 12km (2) 時速 24km (3) 8時 15分

4. 平行と合同

【演習】①平行線と角

- 1 (1) 105° (2) 58° (3) 96° (4) 45° (5) 74° (6) 43° (7) 28° (8) 35°

【演習】②多角形の内角と外角

- 1 (1) 69° (2) 135° (3) 100° (4) 95° 2 (1) 1260° (2) 150° (3) 8角形 (4) 正十二角形

【演習】③合同な図形 (1)

- 1 (1) $\triangle AMB \equiv \triangle CMD$ (2) $\triangle AMB \equiv \triangle DMC$ (3) $\triangle ABD \equiv \triangle ACD$
(2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい) (1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しい) (3組の辺がそれぞれ等しい)

- 2 (1) 2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい (4) 1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しい

【演習】④合同な図形 (2)

- 1 【証明】 $\triangle EAD$ と $\triangle CAB$ において、
 $\angle E = \angle C$ (仮定) …①
 $AE = AC$ (仮定) …②
 $\angle A$ は共通…③
①、②、③より、1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいので、 $\triangle EAD \equiv \triangle CAB$
したがって、 $AD = AB$ となる。
- 2 【証明】 $\triangle AMC$ と $\triangle BMD$ において、
 $AM = BM$ (仮定) …①
 $CM = DM$ (仮定) …②
 $\angle AMC = \angle BMD$ (対頂角) …③
①、②、③より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいので、 $\triangle AMC \equiv \triangle BMD$ である。

【演習】⑤総合演習

- 1 (1) 42° (2) 62° (3) 126° (4) 20° (5) 45° (6) 78° (7) 47° (8) 52°

- 2 (1) $180(n-2)^\circ$ (2) 30° (3) 60° (4) 正十二角形

- 3 【証明】 $\triangle AMC$ と $\triangle BMD$ において、
 $AM = BM$ (仮定) …①
 $CM = DM$ (仮定) …②
 $\angle AMC = \angle BMD$ (対頂角) …③
①、②、③より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいので、
 $\triangle AMC \equiv \triangle BMD$
したがって、 $\angle A = \angle B$ (又は $\angle C = \angle D$ でもよい)
錯角が等しいので、 $AC \parallel DB$ である。

【演習】⑥中間・期末テスト予想問題演習

1 ①対頂角 ②同位角 ③ $\angle g$ ④ $\angle e$ ⑤ $\angle f$ ⑥錯角 ⑦ $\angle h$ ⑧平行 ⑨ $l \parallel m$

2	合同な三角形 $\triangle GHI \equiv \triangle LJK$	合同条件 2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい
---	--	----------------------------

3 (1) 1440° (2) 156° (3) 9角形

4 (1) 103° (2) 72° (3) 93° (4) 80° (5) 132° (6) 75° (7) 124° (8) 23°

5 ①錯角 ② $\angle DAB$ ③ $\angle EAC$ ④ $\angle DAE$

6 (1) 合同といえない (2) 合同といえる (2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい)
(3) 合同といえる (1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しい)

7 【証明】 $\triangle AOC$ と $\triangle BOC$ において、
 $\angle AOC = \angle BOC$ (仮定) …①
 $OA = OB$ (仮定) …②
 OC は共通 …③
①, ②, ③より, 2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいので、
 $\triangle AOC \equiv \triangle BOC$
合同な図形の対応する辺の長さは等しいので, $AC = BC$ となる。(証明終わり)

5. 三角形と四角形

【演習】①平面図形の基礎知識

1 (1) 111° (2) 76.5°

2 (1) [証明] $\triangle AEC$ と $\triangle ADB$ において、
 $AC = AB$ (仮定) …①
 $\angle A$ は共通 …②
 $\angle AEC = \angle ADB = 90^\circ$ …③
 ②、③より、 $\angle ACE = \angle ABD$ …④
 ①、②、④より、1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいので、

$$\triangle AEC \equiv \triangle ADB$$

したがって、 $AE = AD$ である。

(2) [証明] $\triangle ECB$ と $\triangle DBC$ において、
 $\angle EBC = \angle DCB$ (二等辺三角形の底角) …①
 BC は共通 …②

ここで、(1) より、 $\triangle AEC \equiv \triangle ADB$ より、
 $AE = AD$ 。一方、 $AB = AC$ より、 $EB = DC$ …③

①、②、③より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいので、 $\triangle ECB \equiv \triangle DBC$

したがって、 $\angle ECB = \angle DBC$ ($\angle PCB = \angle PBC$)
 $\triangle PBC$ において、2角が等しいので、 $\triangle PBC$ は二等辺三角形となる。よって、 $PB = PC$ である。

【演習】②直角三角形

1 [証明] $\triangle BEH$ と $\triangle BCH$ において、
 $BE = BC$ (仮定) …①
 $\angle BEH = \angle BCH = 90^\circ$ (仮定) …②
 BH は共通 …③
 ①、②、③より、直角三角形の斜辺と他の1辺がそれぞれ等しいので、
 $\triangle BEH \equiv \triangle BCH$
 よって、 $EH = CH$ となる。

2 [証明] $\triangle ACM$ と $\triangle BDM$ において、
 $AM = BM$ (仮定) …①
 $\angle ACM = \angle BDM = 90^\circ$ (仮定) …②
 $\angle AMC = \angle BMD$ (対頂角) …③
 ①、②、③より、直角三角形の斜辺と1つの鋭角がそれぞれ等しいので、 $\triangle ACM \equiv \triangle BDM$ となる。

3 [証明] $\triangle ABE$ と $\triangle CDF$ において、
 $AB = CD$ (長方形の1辺) …①
 $\angle AEB = \angle CFD = 90^\circ$ (仮定) …②
 $\angle ABE = \angle CDF$ (平行線の錯角) …③
 ①、②、③より、直角三角形の斜辺と1つの鋭角がそれぞれ等しいので、
 $\triangle ABE \equiv \triangle CDF$ 。したがって、 $BE = DF$ となる。

【演習】③平行四辺形

1 (1) 2組の対角がそれぞれ等しい、(3) 1組の対辺が平行でその長さが等しい

2 [証明] 四角形 $AECF$ において、
 $AO = CO$ (平行四辺形の対角線の性質) …①
 $OE = OF$ (仮定) …②
 ①、②より、対角線がそれぞれの中点で交わるので、四角形 $AECF$ は平行四辺形となる。

3 [証明] 四角形 $ANCM$ において、
 $AM = \frac{1}{2} AD$ (仮定) …① $NC = \frac{1}{2} BC$ (仮定) …②
 $AD = BC$ (平行四辺形の対辺) …③
 ①、②、③より、 $AM = NC$ …④
 また、 $AD \parallel BC$ より、 $AM \parallel NC$ …⑤
 ④、⑤より、1組の対辺が平行でその長さが等しいので、四角形 $ANCM$ は平行四辺形となる。

【演習】④特別な平行四辺形

1 (1) イ、ウ (2) ア、エ (3) ア、エ (4) イ、ウ

2 (1) 30° (2) 90° (3) 3cm

【演習】⑤総合演習

1 【証明】 $\triangle CAD$ と $\triangle CBE$ において、
 $AC = BC$ (仮定) …①
 $CD = CE$ (仮定) …②
 $\angle ACD = \angle ACE + \angle ECD = \angle ACE + 60^\circ$ …③
 $\angle BCE = \angle ACE + \angle BCA = \angle ACE + 60^\circ$ …④
③、④より、
 $\angle ACD = \angle BCE$ …⑤
①、②、⑤より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいので、 $\triangle CAD \equiv \triangle CBE$
したがって、 $AD = BE$ である。

2 【証明】 $\triangle CAD$ と $\triangle CBE$ において、
 $AC = BC$ (仮定) …①
 $CD = CE$ (仮定) …②
 $\angle ACD = \angle DCE - \angle ECA = 60^\circ - \angle ECA$ …③
 $\angle BCE = \angle BCA - \angle ECA = 60^\circ - \angle ECA$ …④
③、④より、 $\angle ACD = \angle BCE$ …⑤
①、②、⑤より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいので、 $\triangle CAD \equiv \triangle CBE$
したがって、 $AD = BE$ である。

3 【証明】 $\triangle ADB$ と $\triangle CPB$ において、
 $AB = CB$ (仮定) …①
 $DB = PB$ (仮定) …②
 $\angle DBA = \angle DBP - \angle ABP = 60^\circ - \angle ABP$ …③
 $\angle PBC = \angle ABC - \angle ABP = 60^\circ - \angle ABP$ …④
③、④より、
 $\angle DBA = \angle PBC$ …⑤
①、②、⑤より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいので、 $\triangle ADB \equiv \triangle CPB$ となる。

4 【証明】 $\triangle POQ$ と $\triangle POR$ において、
 $PQ = PR$ (仮定) …①
 $\angle PQO = \angle PRO = 90^\circ$ (仮定) …②
 OP は共通 …③
①、②、③より、直角三角形の斜辺と他の1辺がそれぞれ等しいので、 $\triangle POQ \equiv \triangle POR$
したがって、 $\angle POQ = \angle POR$ となる。

5 【証明】 $\triangle BCD$ において、
 $\angle DBC = \angle ABD$ (仮定) …①
 $\angle ABD = \angle CDB$ (平行線の錯角) …②
①、②より、
 $\angle DBC = \angle CDB$ …③
③より、 $\triangle BCD$ で、2つの角が等しいので、 $\triangle BCD$ は二等辺三角形となる。

6 【証明】 $\triangle ABE$ と $\triangle CDF$ において、
 $BE = DF$ (仮定) …①
 $AB = CD$ (平行四辺形の対辺) …②
 $\angle ABE = \angle CDF$ (平行線の錯角) …③
①、②、③より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいので、 $\triangle ABE \equiv \triangle CDF$
したがって、 $AE = CF$ となる。

7 【証明】 $\triangle POB$ と $\triangle QOD$ において、
 $\angle POB = \angle QOD$ (対頂角) …①
 $\angle PBO = \angle QDO$ (平行線の錯角) …②
 $BO = DO$ (平行四辺形の対角線の性質) …③
 ①、②、③より、1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいので、 $\triangle POB \equiv \triangle QOD$
 したがって、 $OP = OQ$ となる。

8 【証明】 $\triangle ADC$ と $\triangle ABG$ において、
 $AD = AB$ (仮定) …①
 $AC = AG$ (仮定) …②
 $\angle DAC = 90^\circ + \angle BAC$ …③
 $\angle BAG = 90^\circ + \angle BAC$ …④
 ③、④より、 $\angle DAC = \angle BAG$ …⑤
 ①、②、⑤より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいので、 $\triangle ADC \equiv \triangle ABG$
 したがって、 $DC = BG$ となる。

9 【証明】 四角形 EFGH において、
 $\angle EFG = \angle AFB$ (対頂角) …①
 ここで、 $AD \parallel BC$ より、 $\angle BAD + \angle ABC = 180^\circ$ (平行線の同側内角の和は 180°)
 $\triangle ABF$ で、 $\angle BAF = \frac{1}{2} \angle BAD$ 、 $\angle ABF = \frac{1}{2} \angle ABC$
 よって、 $\angle BAF + \angle ABF = \frac{1}{2} \angle BAD + \frac{1}{2} \angle ABC = \frac{1}{2} (\angle BAD + \angle ABC) = 180^\circ \times \frac{1}{2} = 90^\circ$
 したがって、 $\angle AFB = 90^\circ$ …②
 ①、②より、 $\angle EFG = 90^\circ$ …③
 同様に、 $\angle EHG = \angle FEH = \angle FGH = 90^\circ$ …④
 ③、④より4つの角がすべて 90° となるので、
 四角形 EFGH は長方形となる。

【演習】 ⑥中間・期末テスト予想問題演習

- 1 (1) 逆：二等辺三角形は、2つの角が等しい三角形である。正しい。
 (2) 逆：面積が等しい2つの三角形は合同である。正しくない。
 (3) 逆：2の倍数ならば4の倍数である。正しくない。

2 (1) 76° (2) 37°

3 (1) $\triangle ACD$ (2) AB (3) $\angle CAD$ (4) AD (5) 2組の辺とその間の角

4 (1) $\triangle ECB$ (2) EC (3) $\angle DBC$ (4) BC (5) 2組の辺とその間の角 (6) $\triangle EBC$

5

	平行四辺形	長方形	ひし形	正方形
2組の向かいあう辺が平行	○	○	○	○
4つの辺の長さが等しい			○	○
2組の向かいあう角が等しい	○	○	○	○
2本の対角線の長さが等しい		○		○
2本の対角線が垂直に交わる			○	○

6 (1) ア、エ (2) イ、ウ (3) イ、ウ (4) ア、エ

7 【証明】 $\triangle AOP$ と $\triangle BOP$ において、
仮定より、 $\angle AOP = \angle BOP$ …①
 $\angle OAP = \angle OBP = 90^\circ$ …②
OP は共通 …③

①、②、③より、直角三角形の斜辺と1つの鋭角がそれぞれ等しいので、
 $\triangle AOP \equiv \triangle BOP$
したがって、 $PA = PB$ となる。

8 【証明】 $\triangle AOE$ と $\triangle COF$ において、
対頂角は等しいので、 $\angle AOE = \angle COF$ …①
平行四辺形の性質より、 $AO = CO$ …②
平行線の錯角は等しいので、 $\angle OAE = \angle OCF$ …③

①、②、③より、1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいので、
 $\triangle AOE \equiv \triangle COF$
したがって、 $OE = OF$ となる。

9 【証明】 $\triangle ABE$ と $\triangle CDF$ において、
仮定より、 $\angle AEB = \angle CFD = 90^\circ$ …①
平行四辺形の向かいあう辺は等しいので、 $AB = CD$ …②
平行線の錯角は等しいので、 $\angle ABE = \angle CDF$ …③

①、②、③より、直角三角形の斜辺と1つの鋭角がそれぞれ等しいので、
 $\triangle ABE \equiv \triangle CDF$
したがって、 $AE = CF$ となる。

6. 確率

【演習】①場合の数

1 33通り

2 4通り

3 15通り

【演習】②確率

1 $\frac{1}{6}$

2 $\frac{1}{3}$

3 (1) 30通り (2) $\frac{2}{5}$

【演習】③総合演習

1 $\frac{3}{8}$ 2 $\frac{3}{5}$ 3 $\frac{3}{14}$

4 $\frac{1}{2}$ 5 $\frac{3}{5}$ 6 $\frac{4}{15}$

【演習】④中間・期末テスト予想問題演習

1 $\frac{3}{5}$ 2 $\frac{3}{5}$ 3 $\frac{1}{6}$

4 $\frac{7}{12}$ 5 $\frac{5}{21}$ 6 $\frac{3}{10}$

7 $\frac{4}{7}$ 8 $\frac{3}{8}$ 9 $\frac{11}{20}$